

## 医薬神社 横浜市青葉区柿の木台 28-2

戦国末期の天正年間(1573～1592)の創建と伝える。真言宗関東山ヶ寺の一つとして創建された醫王山薬師院東光寺の境内に山号の「醫」、寺号の「薬」を取り「医薬神社」として祀られたのが始まりという。ご祭神は大国主神と小彦名神。(神奈川県神社誌、境内掲示)

江戸時代末期、水戸藩主徳川斉昭の庶子として生まれた東光寺住持諦恵が明治初年に新政府が神仏分離令を發布したとき水戸神道を奉じて僧侶から神職となり、近隣の上谷本・下谷本・上市ヶ尾・成合の四ヶ村の檀家は神社神道に改宗し、東光寺を廃祀して医薬神社を独立創祀した。

御祭神大国主神は、親子で手を携えて国を回ったといわれる故事により縁結びの神様として広く信仰されている。また、大国主神が稲羽の素兔を助けた神話に因み、病氣平癒・厄除・安産成就・無病息災・延命長寿のご利益のある神社として崇敬されている。(境内掲示)  
また、地神塔の脇に大山道が刻印されており当時は賑わいを見せていたと推測される。



参道



本殿



地神塔



その右側面に大山道